

令和3年度 第2回福井市地域生活交通活性化会議 議事要旨

日時	令和3年8月11日(水)13:30~14:45
場所	福井市総合ボランティアセンター研修室(ハピリン4階)
議題	別添「次第」の通り
出席者	別添「座席表」の通り
事務局	<p>2 越美北線について (越美北線のダイヤ改正に関する報道内容について西日本旅客鉄道株式会社が説明)</p> <p>越美北線の利用者がピーク時より減っていることは重く受け止めている。今後利用促進について県、大野市、本市、沿線住民で取り組んでいきたい。越美北線も一度乗っていただくと味があり、田園の中を走っていく地域交通もあることを再発見できる。乗って残そうというのが公共交通のスローガンになる。本市としても利用促進をしっかりと行っていきたい。</p>
委員	<p>7月28日のダイヤ改正の発表があるまでに、沿線市町、関係者との意見交換会を行い、10月2日の実施までに細かいダイヤ調整の話など、継続して JR と協議ができると聞いている。</p> <p>利用促進策については、新幹線開業を見据えて観光利用促進のための話し合いを続けていき、プラスになるようなものを引き出していきたい。継続して JR と話し合い、県としても沿線市町と一緒に取り組んでいきたい。</p>
座長	<p>国全体としても同じような状況のところもあると思うが、他の状況など説明できますか。広い視点も大事で、市町だけの話ではなく、国全体の話にもなってくる。</p>
委員	<p>コロナの後需要が落ちていて、利益が出ないことには民間企業としては厳しい状況だが、交通網を維持していくため国としても支援していきたい。</p>
座長	<p>話し合いは継続していき、利用促進策が大事ということは毎度言われていることだが、コロナで顕著に表れている。コロナ明けでも楽観できない。今までと同じような取り組みでは中々上手くいかない。大胆な発想、交通網の中だけでは留まらない使い方など価値を創造していかないといけない。</p> <p>委員の方も、色々な場で聞くこと、話し合うことで利用に繋がっていかたい。</p>
	<p>3 議題 【協議事項】</p>

	<p>議案1:コミュニティバス「すまいる」の路線バス化について (まちづくり福井株式会社、京福バス株式会社が資料1に基づき説明) ※南ルート 高澤内科クリニック前バス停追加を併せて説明</p>
座長	福井駅止まりで1回降りてもらって、続けて乗る場合料金はどうなるのか。
委員	乗り継ぎ券を発行することを考えている。
座長	バスの待機場所はどうなるのか。利用者からするとバスが待っているのに降りることとなるため、具体的なイメージはあるか。
委員	ロータリーの中の待機所で待っていただくことになる。場所が空いていない場合は一旦外に出て、時間を合わせてロータリーの中に入る流れになる。
座長	<p>ルートによっては30分では厳しいところがあり、時間帯でも指摘があったため、定時性ということでは安定する。便数が減るので利用者にはご不便が出てくるのではないか。</p> <p>動き出す時間が早まり、終わる時間は遅くなることで時間帯の幅が広がるということによろしいか。</p>
委員	資料1-1のダイヤ案のとおりである。
委員	バス停を追加するならば報告をお願いする。
	<p>議案2:地域コミュニティバスの運行継続判断期間の特例について (事務局が資料2に基づき説明) (意見なし)</p> <p>議案3:東郷地域コミュニティバスの運行計画変更について (事務局が資料3に基づき説明)</p>
座長	7月下旬に地元広報への掲載とあるが、事前告知という形になるのか。
事務局	7月下旬に地元の協議会で新たなダイヤ及びルートが固まったことに対する周知である。
委員	地域コミュニティバスに対する市民目線の声というのはどのように吸い上げられるのか。集まって話すのか、アンケートを取るのか。
事務局	東郷地区についてはアンケートを取って、そのアンケートを元に地区の協議会

	の委員で協議していく。
委員	地域コミュニティバスを使っていない方に対する取り組みを地区内で行っていると思うが、アンケートで使っていない方の声を拾っていくことはしていないのか。
事務局	東郷地区の運行計画変更にあたっては、主に利用者の意見を中心にまとめている。
委員	アンケートは定期的に行っているのか。
事務局	本格運行を見据えて今年の冬に地元でアンケートを行っているが、定期的というわけではない。
委員	今回の変更は、国道8号線経由から板垣橋経由になること、下馬方面を転回すること、下毘沙門町付近のルートの変更でよろしいか。
事務局	そのような変更になる。
委員	この会議で議決されることで運輸局の手続きの審査期間が短縮されるため、短い期間で審査しないといけない。走るルートが変わると中部運輸局に認可を取ることになるため確認をした。
委員	フリー乗降制は10月の運行から採用するのか。
事務局	将来的には考えているが、今回は採用しない。
委員	道幅や見通しの問題があるので、住民の方は区間全てがフリー乗降制になるイメージはないと思うが、どのようにしたらフリー乗降制ができるのか、地元の方に情報を伝えてほしい。事業者も一緒に取り組んでいきたい。
座長	荷物を持っていたら近い所で降りたいというのは当然あると思うが、安全性の問題があるので、地域の協議会で区間や使い方などを考えてほしい。使う方は固定されると思うので、その方の動き方が分かってくるはず。危ない場所が分かれば採用しないことも含め地域で決めていく話である。
委員	4 その他 森田にコミュニティバスは走っているが、免許を持っていない高齢者の方がエルパに行きたい、総合病院に行けたら助かるとの声がある。そのような話は地

<p>座長</p>	<p>域の協議会には上がっていないので、どのように意見を言えばよいか分からないとの相談もある。</p> <p>社協の会議では、高齢者に免許返納を勧めたいが、移動の足を考えると不安で踏み切れないとの声が多数あった。またコロナ禍で外出できない中、移動の機会が少なくなるので、公共交通について考えてほしいとの声もある。</p> <p>高齢者、子ども、障がい者がいる世帯に対する移動の足の確保についての声が多くなっている。</p> <p>東郷地域コミュニティバスのように、他地域でも利用者の年代などの利用状況、路線バス、鉄道における拠点ごとの乗車率が地区協議会の中で把握できているとよいとの意見があった。</p> <p>例えば路線バスを止めた場合、全ての交通ネットワークを将来どのように維持していくのか、地域コミュニティバス、路線バスに替わるもの、鉄道を含めて総合的に考える時期に来ているのではないか。交通弱者に対する交通インフラをマクロ的に考えるべきとの意見があった。</p> <p>地域コミュニティバス単体で考えるのではなく、鉄道、タクシー、自動車学校のバスを含めたトータルに交通網を見直す時期に来ているとの意見もあった。</p> <p>利用者から様々な意見を聞いたりするが、意見を言う場所が分からない人もいるなど、全部の声を拾えてはいない。利用していないから意見を言えない人がいる中、どこに言えばいいか分からない人もいるなど使っていない人をひとくくりにはできない。地域の協議会でも色々な意見を集めて、このような会議で意見を出し、共有していくことが大事ではないか。</p> <p>また、コロナ禍で免許返納者の数に影響はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>コロナ禍までは増えていた。数年前に高齢者のアクセルとブレーキの踏み間違いが相次いだ時期は免許返納者の数が増えていた。</p> <p>将来的な交通のビジョンについては、昨年度策定した都市交通戦略でもまとめであり、今年度策定の第8次総合計画でも交通をどうすべきか施策を立て取り組んでいきたい。都市交通戦略が周知されていない現状であれば、分かりやすい言葉で伝えていきたい。</p> <p>交通事業者から経営が厳しいとの声があり、7月に国へ地方公共交通の新たな制度の策定について要望を行った。バス、鉄道など住民の足となる貴重なインフラを守っていかないといけないと考えている。</p>

委員	<p>地方の声を福井運輸支局からも、中部運輸局、本省に上げて行ってほしい。地方の交通事業者のために力添えをお願いしたい。</p> <p>免許返納制度も利用していただきたい。家族も言わないと返納しないため、声掛けをお願いしたい。</p>
座長	<p>ショッピングセンターでも相談を受けたりとしているが、家族の問題もあるので声掛けも難しいところもある。社会、仲間の中で受け入れられる環境作りも大切である。</p> <p>都市交通戦略も作っても、伝わっていないことがあるので、機会を見て共有することも必要である。Maas についても勉強会が始まって、この会議でも議論いただくことになるのではないか。新幹線開業が一つのゴールラインなので、意見をいただきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>